

九州国際大学 紀要第76号（平成27年9月）抜刷
社会文化研究所

インドネシアの詩と詩人 ～その3
—ティムール・シナル・スプラバナ
(Timur Sinar Suprabana) 氏の詩—

大形里美

インドネシアの詩と詩人 ～その3 —ティムール・シナル・スプラバナ (Timur Sinar Suprabana) 氏の詩—

大形里美

I. ティムール氏の略歴

今回紹介するのは、インドネシアで最もユニークな詩人といっても過言ではないティムール・シナル・スプラバナ (Timur Sinar Suprabana) 氏の作品だ。彼の詩は恋愛詩が圧倒的に多い。1963年、中部ジャワの古都スラカルタ市に生まれ、3歳の時から中部ジャワ北岸のスマラン市に

移り、現在も妻と大学生、高校生の娘二人とスマラン市に在住している。



(写真1 ティムール氏。ティムール氏のFacebookに掲載されたもの。)



(写真2 「浦島太郎の話」『カルティカ新聞』(1979年11月25日付け)へのTimur Sinar氏による投稿。ティムール氏のFacebookに掲載されたもの。)

両親ともに文学者という家系に生まれたティムール氏は、両親の影響もあり、幼い頃から外国文学に触れる機会も多く、かなり早い時期から執筆活動を開始している。16歳の頃には、すでに新聞にしばしば記事を投稿していて、自身のFacebookには当時『カルティカ新聞』に日本の昔話『浦島太郎』を紹介していた記事が紹介されている(写真2参照)。ちなみにティムール氏は、当時から日本文学に関心を寄せ、これまでに数多くの日本の文学作品を読んできたという¹⁾。

ティムール氏は、1980年にスラカルタ市で開

催された芸術フェスティバルに初めて参加して以降、インドネシア国内各地の都市で開催された芸術・文学・文化フェスティバルに数多く参加し、これまでに参加した芸術・文学・文化フェスティバルは少なくとも計57回に上る。そして『コンパス紙』『スアラ・ムルデカ紙』『クダウラタン・ラヤット紙』『メディア・インドネシア紙』『スアラ・ブンバルアン紙』などの全国紙に掲載された彼の詩は数百を数える。

またこれまでに出版されたティムール氏の著書（詩集）は、単著としては『東から吹いてくる（KESIUR Dari TIMUR）』（2012年）、『愛の魔法（Sihir Cinta）』（2008年）があり、共著は『茶色の家から愛へ（DARI RUMAH COKLAT KE CINTA）』（2013年）、『深く潜る（menyelam Dalam）』（2011）、『スマランの銅貨（Gobang Semarang）』（2009年）など79冊がある。彼は、詩の創作活動の他、短編小説、エッセイ、文芸批評なども執筆し、時にはTVにコメンテーターとして出演することもある。またそれ以外にも、フリーランスのカメラマンとして写真撮影の仕事を受けたり、近年は、抽象画を描いたり（写真3参照）、ドキュメンタリー映画を作成するなど同氏の活動は多岐に渡る。さらに若い頃、富裕層をターゲットとして宝石を売っていた経験をもつというティムール氏は、宝石についての知識が豊富で、インドネシアにおける最新の宝石ブームを背景に、宝石をデザイン・加工し、Facebookなどを通じて販売するビジネスも手掛けている。

社会的には、ティムール氏は2010年から2013年まで中部ジャワ、スマラン市文化協議会（Dewan Kesenian Semarang）の文学委員会会長（Ketua Komite Sastra）を務めていたが、現在はその役を離れている。彼は住民運動にも関心を寄せ、現在はジャワ北岸のルンバン市郊外に建設されようとしているセメント工場の建設に反対する運動にも関わっている他、マングローブの植樹など生活環境保全のためのさまざまな活動などにも関わっ



（写真3 ティムール氏による抽象画。ティムール氏のFacebookに掲載されたもの。）

ている。

II. ティムール氏の詩作品10篇

ここでは、ティムール氏のFacebookに公開されている771の近年の作品の中から10篇を紹介する。

1. biarkan aku membasuh sepasang telapak kakimu, o, Wahai ibu

僕にあなたの両足の裏を洗わせてください、ああ母よ

2. di gelak tawa. di mata. di berpeluk Mesra dengan cinta

笑い声に。目に。愛の睦まじい抱擁に。

3. di Hati

心で

4. berpilin

からみ合う

5. juwita, kirana

美しい人、煌^{きら}めき

6. di Ranjang

ベッドで

7. betapa Jauh jarak sunyi ke hatimu, kekasihku

なんと遠いのだろう 君の心へのしずかな隔たりは、僕の恋人よ

8. burung

鳥

9. kukecup

僕はキスした

10. SAJAK MENGEJA KAHANAN ~mei 2008 lalu AKU MENULISKANNYA SEMBARI BERLINANG AIRMATA!

状況を綴った詩 ～2008年5月 そうして僕は涙を流しながらそれを書いた！

1. biarkan aku membasuh sepasang telapak kakimu, o, Wahai ibu
僕にあなたの両足の裏を洗わせてください²、ああ母よ

biarkan aku membasuh sepasang telapak kakimu, o, Wahai ibu
meski itu di luar perjamuan yang menghadirkan banyak lezat di kalbu
kerna di dalam kalbuku, jauh di pedalaman jiwaku, bahkan bungabunga
mekar tanpa warni dan warna. tiap helai kelopaknya menyerah pada
perut belanga
yang menampung air hujan semalaman di paruh musim kemarau
panjang
ketika sore, siang dan pagi hingga malam sesudah senja mengelam
muram dan bimbang.

僕にあなたの両足の裏を洗わせてください、ああ母よ
たとえそれが心において多くの美味を供するもてなしではないとしても
なぜなら僕の心の中、僕の精神（魂）の深奥には、花花さえも色もなく咲いて
いるから。
その花びらの一枚一枚は、長い乾季の半ばに一晩中の雨水を貯めた土鍋の中に入っていく
夕方、昼、朝、そして夜まで、夕暮れが薄暗く陰気になり戸惑った後に。

hendak ke manakah panjenengan sesudah gelisah pun pecah?
kan tiba di manakah panjenengan sebelum matahari, di barat, memucat
walau merah?
ada kalanya aku merasa engkau sendiri, meski selalu berumah di hati.

あなたはどこへ行くつもりなのか 不安さえも張り裂けた後に。
あなたはどこに到着するのだろうか、太陽が、西で、赤くても色褪せる前に。
僕は時にあなたが一人ぼっちだと感じることもある、(あなたは) いつも (僕の)

心に住んでいるというのに。

kadangkadang kulihat engkau begitu sepi, walau senantiasa lenggahan bercakap di hati.

ingin, sesungguhnya sering, tibatiba bisa datang bertandang untuk sekadar supaya terlihat atau cuma agar dapat sebentar memandang.

時々僕はあなたがとても寂しく見える、(あなたは) 常に (僕の) 心の中に座って話をされているにもかかわらず。

願っているんだ、本当は頻繁に、突然立ち寄りたいと

ただ (僕を) 見てもらうためだけ、あるいはしばらく (あなたを) 見つめるためだけに。

namun entah rasa macam apa, yang jelas bukan sebab malas, seperti mencegat

dan lalu menjerat hingga aku batal berangkat.

padahal jarak rumah dengan engkau

tak lebih jauh dibanding jarak antara rindu dan risau.

でもどんな類の感情なのかわからないが、はっきりしているのは億劫だからではなく、差し止めるような

そうして僕が出かけるのをやめるよう罨にかけるような感情だ。

家とあなたの距離は

恋しさと心配の間の距離ほども遠くないのに。

seperti padi saat menuju jadi beras

mengapa langkah kakiku tak sekali dua mendadak kebas?

kini, di sini, bisa di mana saja, ketika usia telah tahutahu menjadi umur kembali ingin bisa kuteguk air terdalam dari sumur.

まるで粃米が米になる時のように
なぜ僕の足取りは一度や二度ではなく不意にすくんでしまうのか。
今ここでも、どこででもできる、はからずも歳がすでに齢になった時
再び井戸の奥底の水を飲めることを願うことは。

seperti tiap lukisanku saat dengan penuh cinta kupigura
bunuh bisa kusua seluruh kepurbaan rasa gembira.
bukan dengan memberi atau terlebih meminta.
barangkali cukup dengan sering berbagi cerita.

まるで僕の絵一枚一枚をありったけの愛を込めて額に納める時のように
僕はすべての喜びの感情の始まりを見つけられることが必要だ。
与えることによってではなく、ましてや求めることによってではなく。
おそらく頻繁に話を分かち合うことで十分だ。

lihatlah, helaihelai dedaun itu, bahkan ketika luruh dari pautan,
pelahan...,
saat akhirnya jatuh ke bumi bukankah tetap pucuknya memandang ke
dahan yang ia tinggalkan?
begitulah aku, salah satu helai dedaun itu.
engkau pohon itu. kasih sayang, kesabaran, entah apa lagi, di engkau,
dahandahan itu.

見てごらん、それらの葉ひとひらひとひらが、もと居たところから落ちる時で
さえ、ゆっくりと…、
ついに地面に落ちる時、その先端はやはりそれが後にした枝を見つめてはいな
いだろうか。
そうなんだ僕は、その葉のなかの一片なんだ。
あなたはその幹だ。愛情、忍耐、さらにあと何か知らないが、あなたにあるん

だ、その枝枝が。

ah, tak bisa ternyata kutulis syair, sanjak terlebih puisi bagimu.
tak bisa kuapa atau apa atau bagaimana bagimu
jika itu masuk dalam pundipundi hitungan
kerna tiada akan pernah sanggup mencukupkan
sebab anak, terhadap ibu, tak kan mungkin bisa sampai bagai beras
ketika ditanak
sedangkan ibu, terhadap anak, sungguh nasi saat dikunyah anak.

ああ、どうやら僕はあなたに定型詩や自由詩など書くことはできない。まして
や詩的文章など。

僕はあなたのために何も、またどうすることもできない
もしそれが計算の財布の中へと入ってしまったら
十分に満たすことなどできないからだ
なぜなら子どもは、母親に対して、炊かれた時の米のようにはなることなど
できるはずがないから
一方、母親は子どもに対して、まことにご飯だ 子どもがもぐもぐと噛みしめ
ている時は。

maka

biarkan aku membasuh sepasang telapak kakimu, o, Wahai ibu
sekali saja
: dengan kehidupanku

だから

僕にあなたの両足の裏を洗わせて欲しい、ああ母よ
人生たった一度でよいから

dan istri serta anak-anakku
melantunkan doadoa serta pengharapan baik
tiap aku bercerita kepada mereka tentangmu di masa kanak-kanak
hingga remajaku dulu
tanpa mesti berurai airmata
baik kerna sedih atau pun sebab gembira

そして僕の妻と子どもたちは
祈りと善き願いを詠唱する
悲しみあるいは嬉しさによって
涙を流す必要などなく
僕が僕の幼少から青年になるまでの昔のあなたについて彼らに語るたびに

kerna ibu, nyaris sebagaimana Tuhan, sungguh tak berkata

なぜなら母は、ほとんど神と同じく、本当に言葉に尽くせないから

2. di gelak tawa. di mata. di berpeluk Mesra dengan cinta

笑い声に。目に。愛の睦まじい抱擁に。

menjadi kanak-kanak kita sebelum lalu tibatiba meremaja.
sempat, berdua, gaprak di bawah cuaca bergugus-gugus mega
sebelum lalu umbul bersama curahan cahaya surya.
di sana, di kelokan tajam pojok selatan tanah lapang,
ada yang memanggil-manggil angin kerna pengin mengunda layang-
layang
kerna tak sabar bisa segera ampatan.
tetapi hari dan bahkan hati mendadak berhujan.

幼ない子どものようになった 僕たちは そうして突然若者になる前に。
二人でガブラック³もした 入道雲の空の下で
その後 太陽の光を受けて 急に大きくなる前に。
そこで、広広とした土地の南の隅にある鋭い曲がり角で
凧を飛ばしたくて風を繰り返す呼ぶ者もあった
すぐに空で舞わせたくて仕方がなかったから。
でも、空模様そして心までもがたちまち雨になってしまった。

padahal Sungguh bersamaku namun tetap kutanya padamu
:di mana kini engkau, wahai, ketika waktu melaju, menghelamu
menuju ke yang sungguh tak terbayangkan kalbu?
di mana kini aku, duhai, ketika engkau di mana bersama entah siapa
yang barangkali sedang menyulam atau menisik baju warna kesumba.
di mana kini kita, o, di mana ketika betapa segala menjadi dingin
dan di manamana yang menderu melulu angin?

本当に僕と一緒にいるのにもやはり僕は君に尋ねてしまう
何処どこにいるんだ君は今。ああ、時がはやく流れ、君を曳ひいて
本当に心に姿が思い浮かばないものへと向かっていく時。
何処どこにいるんだ僕は今、おお、君が誰といっしょにどこにいるのか知らぬ時。
おそらく深紅の上着を刺繍しているか もしくは繕繕っている時。
何処どこにいるんだ僕たちは今？おお、いかに全てが冷たくなり
そしていたるところで唸うなるものが風ばかりの時。

kubayangkan, kurindukan, kuharapkan, kucoba wujudkan,
sungguh di Sini kita, o, kekasih yang mengembara di garis tangan
:di gelak tawa. di mata. berpeluk Mesra dengan cinta.
menanam pepohonan, merangkai bunga, memasang taplak meja,
melakukan halhal sederhana, menjadikannya bermakna dan berguna.

僕は思い浮かべる、恋しく思う、待ち望む、そして僕は現実のものにしようとした、

本当にここにいるんだ僕たちは、おお、手相に放浪する恋人よ
笑い声に。目に。愛の睦まじい抱擁に。

木木を植え、花をアレンジし、テーブルクロスを敷く、
素朴なことをして、それを意味のある有益なものとする。

ah, baru kemarin rasanya

ketika kepadamu aku bertanya, “apakah kamu bersedia
menjadi istri lelaki pemetik hidup dari ujung pena
dan bersamaku, kita bikin tiap kata jadi Nyata.”

ああ、つい昨日のようだ

「君は、ペンの先から生活を摘み取る男の妻となって、
僕と一緒に、一つひとつの言葉を現実にする用意があるかい」と君に僕が尋ねた時が。

baru kemarin rasanya

ketika engkau tak berucap apa-apa
selain menjawab dengan binar pandang mata yang menjelaskan Segala

つい昨日のようだ

君が何も語らなかった時が
すべてを解き明かす眼差しの輝きで答える以外には

sungguh. baru kemarin rasanya

本当に。つい昨日のようだ

3. di Hati

心で

di Hati
arus kali menadi
mencatat riwayat
di Urat

心で
川の流れが脈打つ
人生を書き記す
筋に

lalu angin tenggara
mendesau tanpa suara
kitapun rindu kapan bisik
merisik, berdesik

そうして東南の風が
音なくざわざわと吹いていく
僕たちもまた恋し慕う 囁き
コソコソさぐり、葉擦れの音をたてる時

lembut
sejumput demi sejumput
kata berpaut
menyibak kabut

やさしく
ひとつまみずつ
言葉が結びつき
霧を払いのける

di Hati

心で

....

....

4. berpilin

からみ合う

jauh
langit jauh
angin jauh
luluh

はるか彼方
空遠く
風遠く
砕けゆく

warna

色は

tiada	ない
aroma	匂いも
tak pula	またない
hanya tatap mata	ただ見つめ合う
hanya lantun suara	ただ声が響き流れる
beri kata dan tanda baca	単語と句読点を与える
jadi punya jiwa	すると精神が宿る
jauh	はるか彼方
langit jauh	空遠く
angin jauh	風遠く
saling rengkuh	互いに胸に引き寄せ合う
kilin di hati	心の中の麒麟 <small>きりん</small>
lampion mengulum api	提灯が火を含む
kolam	池が
memeram cahaya temaram	うす暗い光をたくわえる
musim dingin	寒い季節
rindu dan ingin	恋しさと願望
kangen terjalin	逢いたい思いが繋がりあう
berpilin	からみ合う
jauh	はるか彼方
langit jauh	空遠く
angin jauh	風遠く
saling Basuh	浄め合う

asmara	恋ごころ
:menepis Samsara	苦しみを払いのけ
menjadikannya rahasia	それを秘め事とする
bagi Usia	齢 <small>よわい</small> ゆえの
.....

5. juwita, kirana

美しい人、煌きらめき

kepada:kau ~di Jauh sana
tak pernah sebelum ini aku terpana
diri menemu hati memanggil hatimu jiwita
diri menemu jiwa memanggil jiwamu kirana
padahal betapa engkau di Jauh sana
bersama musim dingin yang cuma bisa kubayangkan saja

宛先：君へ あの彼方きんがたにいる
今まで僕は心を奪われたことがなかった
(僕の) 心が君の心を美しい人と呼ぶのを見つけた
(僕の) 精神が君の精神きんしんを煌めきと呼ぶのを見つけた
君はあんなに遠くとほくにいるというのに
僕はただ想像することしかできない冬とともに

Asmara
di manamana asmara
di ke mana kuarahkan pandang sepasang mata
membayang asmara
:bulubulu sayapnya mengapas salju dan bercahya

恋
どこ
何処にでも恋
どこ
何処へでも僕が両目を向けるところに
恋が透けて見える
翼の羽は雪の綿となり光る

risau kini aku
bersauhsauh pengen bisa melipat Jauh
melayari kalbuku menuju tanpa keluh

心配しているんだ今僕は
錨を下ろしながらも 遠くへ遠路を一気に駆けることができたらと思う
航海する 僕の心は君へ向かって 嘆くことなく

hidup	生きることが
berdegub	動悸を打つ
degub	動悸は
tiada kan redup	鈍ることなどない
meski tak kekal	永久ではないが
namun abadi	永遠だ
kerna kau juwita	なぜって 君が美しい人だから
sebab kau kirana	だって君は煌めきだから

aku?	僕かい？
o.Kencana!	あ、黄金だよ！

6. di Ranjang

selalu saja gagal saat berharap pengin bisa bosan menatap kedua mripatmu. mripat bintang. mripat yang tak kenal bimbang.

君がまた旅へと出かけようとする時、光の筋だけが残る まるで本当に恥らうように君がうつむいた時の記憶へと僕を結ぶ。君の両目、星のような目、戸惑いを知らない目を見つめることに飽き飽きしたいと望む時いつだって失敗してしまう僕の両目に君が再びびったりと目を向けるまで 君の肩を撫で続けながら「愛している」と僕が囁いた後の。

kekasihku. sudah kembali tiba di tengah magrib ketika kutulis sajak ini. sudah kembali kusua terang yang perlahan beranjak berangkat, ke Pergi, hingga haripun remang sampai hatipun gamang oleh cuaca yang mendadak berwarna abuabu.

ah, aku tibatiba ingat bagaimana angin pernah mendadak mengekas santer dan menyingkap lingir gaunmu yang berendarenda hingga memperlihatkan hampir keseluruhan pahamumu yang berkulit sewarna pangkal daun sawi yang tapi tanpa kerutmerut seperti kulit pohon mangga di halaman rumah.

僕の恋人よ。もう再び日没の最中がやってきた 僕がこの詩を書く時
また再び僕は出会った ゆっくりと旅へと出かけようとする明るさと、
やがて日も暮れ突然に灰色になってしまった空模様に心がたじろぐまで。
ああ、僕は不意に思い出した かつていかに風が急に激しく吹き荒れ君の外套
の裾をめくり上げたかを 白菜の茎の色のようなのだが家の庭のマンゴーの木の皮
のようなシワなどない肌をした君の腿（もも）を危うく丸ごと見せるまで。

angin itu pula, oi,

entah bagaimana mulanya menghela kita ke mempercakapkan cuaca sampai tibatiba kita menemu diri sudah saling memeluk.

"aku mencintaimu," bisikmu. "dan aku sungguh ingin bercinta denganmu," bisikku.

engkau tak berkata apaapa, memilih tak berkata apaapa, agar engkau bisa menggigit leherku, sebentar menghisapnya, dan kau biarkan dirimu menjelma ombak yang berulang menghempasi tebing karang pada laut yang menjelma dari dalam diriku.

やはりその風こそが、おお（そうだ）、

始まりはどうだったのかわからないが 僕たちを天気についての話をすると^ひ曳いていったのだった

やがて突然僕たちが互いに抱き合うまで。

「愛している」と君は囁いた。「そして本当に君と愛し合いたい」と僕が囁いた。君は何も言わなかった、何も言わないことを選んだ、君が僕の首を噛むことができるように、

しばらくそれ（僕の首）を吸った、そして君は 君自身が僕自身の中から現れた海にある珊瑚の断崖に何度でも打ち付ける波に生まれかわるに任せた

kekasihku. ada banyak pernyataan cinta, ada entah berapa percintaan, juga sesuatu yang mengingatkanku pada kepedihan yang menggelisahkan yang sudah kutempuh. tetapi bersamamu, sungguh hanya Jika sedang bersamamu, tiada cemas dan luka bisa berdaya.

僕の恋人よ。多くの愛の告白があった、いったい幾つの恋愛があっただろうか、そしてすでに僕が通り抜けた不安に駆り立てる辛さを思い出させる何かも。しかし君とは、本当にただ君と一緒にいる時だけは、心配もなく傷も力をもてるんだ。

sampai kaupun beranjak berangkat, ke Pergi, tepat ketika malam melembab di tengkuk.....

君がまた出かけようとするまで、旅へと、ちょうど夜がうなじで潤う時に…。

8. burung

鳥

apakah yang kau bisa ceritakan padaku mengenai dan tentang burung atau seekor burung atau burungburung jika paras wajahmu melulu murung dan berulang kau berucap seolah bersenandung, “mengapa langit melulu tampak mendung?” dalam nada tanya menggantung padahal kautahu bagaimana bahkan cuaca pun sudah berbulan tiada bertudung hampir apa pun yang barangkali di akhirnya bisa bikin kita keduwung?

なにを君は僕に語ってくれることができるんだい 鳥 いや一羽の鳥 それとも鳥たちについて もし君の顔つきがただただ暗く そして何度も口ずさむのように、「なぜ空はずっと曇ってばかりに見えるの？」と落ち着かず尋ねる調子で口にする時 いかにかさえももう何ヶ月も 最終的におそらく僕たちを後悔させることができるようなものを何もかぶっていないと君は知っているというのに。

hentilah, sebentar menit saja, berkisah soal bagaimana engkau melihat angin mengekas santer dari utara jika padahal bukankah tak sehelai daun pun yang tampak bergoyang pada tangkainya tanda ada angin yang menghembusnya agar bisa agak berlama kusampaikan rasa lelah yang tak tertibus meski telah berulang kucoba bius.

やめてごらんよ、ほんの少しの間だけでも、北から激しく風が吹き荒れるのを どう君が見たのか話すのを もし吹きつける風があることの証となる揺れて見える一枚の葉さえ枝にないのなら 何度も僕が麻酔をかけようとしたのに償^{つぐな}う

ことができなかつた疲労感を少し長い間僕がもたれかからせてあげられるよう。

sekarang, tak soal bagiku kalau pun kau masih bimbang, biar kulepas burung atau seekor burung atau burungburung dari ingatan dan percakapan yang mulai terus merajuk mengajak tidur dalam lelap yang bertahun bilang, “tidak!”, jika soalnya sudah menyangkut mesti pejam mata.

今、僕にとって問題ではない もし君がまだ戸惑っていたとしても、僕は鳥、一羽の鳥、あるいは鳥たちを記憶から そしてぐっすり眠るよう誘うと何年も「ちがう！」と言って絶えず不平をいい始めた会話から解き放とう、もし問題がすでに目を瞑らなければならぬところまで来ているのなら。

lajur jalan, bahkan udara, oh, juga langit itu ternyata, kini hapus dari segala jenis peta yang semula merelief di sepasang telapak tangan kita dan bahkan kusangka kekal tercetak di tiap jejak.

道筋が、さらには空気が、ああ、またあの空も現に、今やあらゆる種類の地図からかき消えてしまった 最初僕たちの両手の平にレリーフ（浮き彫り）となり さらにすべての軌跡に永遠に刻印されると僕が思っていたものが。

kelabuhitam.

黒い灰色。

9. kukecup

僕はキスした

kukecup

僕はキスした

di dagu

あごに

: biar mekar kuncup

^{つぼみ}
蕾が開くよう

setelah lekap selekat sagu

サゴ (*サゴ椰子からとられたでんぶん質の粉から作られた粘り気のある糊状の食物) のようにぴったりと密着した後

kurengkuh

僕は胸に引き寄せた

kudekap

僕は抱きしめた

: biar luruh seluruh aduh

すべての嘆きが落ちていき

menguap di senyap

静けさの中で蒸発するように

“semula aku hanya Ingin mencintaimu.

lalu kutahu betapa kamu sungguh tresna padaku.

itulah sebab mengapa aku masyuk di hatimu.

dan kau golergoler di rusukku.” bisikku.

「はじめは君を愛したいと思っただけだった。

そうして僕は知ったんだ いかにも君が本当に僕を愛しているのかを。

それが理由なんだ なぜ僕が君の心に夢中になったかの。

そして君は僕の肋骨の中で胸をはだけて寝っ転がっているんだ」と僕は囁いた。

“kekasih

bagaimana jika aku tak bisa kausapih.

padahal terhadapku kamu

sudah Jemu?" tanyamu.

「愛しい人よ
もし私があなたから離れられないとしたら どうすればいいの。
私に対してあなたは
もう飽きてしまったというのに？」と君が尋ねる。

lalu malam, di luar sana, jadi begitu Nyata.
tidak lagi hanya bagai cerita.
dan kupandang rembulan
mengapung. melayang. begitu perlahan.

そうして夜、あの彼方で、それほどまでに現実となった。
もはや単なる物語のようではなく
そして僕は月を見た
宙に浮いた。すうっと飛んだ。とてもゆっくりと。

kembali kurengkuh
kudekap
: biar luruh seluruh aduh
menguap di senyap
begitulah kami. menyenapas.
berharap sanggup tak bisa dikepras
jadi Noktah
.....

もう一度僕は胸に引き寄せた
僕は抱きしめた
すべての嘆きが落ちていき
静けさの中で蒸発するように

そんな風なんだ 僕たちは。呼吸を同じくしている。
一気に刈り取られてしまわないことを願う。
小さな点となってしまうのを。

.....

10. SAJAK MENGEJA KAHANAN ~mei 2008

lalu AKU MENULISKANNYA SEMBARI BERLINANG AIRMATA!⁵

状況を綴った詩 ~2008年5月 そうして僕はそれを涙を流しながら書いた

negeri macam apa ini, Saudara?
hidup magreg, mandek dan badeg
padahal bahkan cuaca
selalu dengan cepat berubah rupa
dan angin santer masih senantiasa mengekas dari penjuru segala.

一体どんな国なんだこれは、兄弟よ。
生活が全く止まり、停滞し、すえた臭いがする
天気さえも
いつも早く移り変わり、
そして強い風がまだ常にあらゆる方角から吹き荒れているというのに。

“senja!
senja!” ratap orang-orang paruh baya
dalam koor genit tak berjiwa
“mengapa di mana-mana
segala terasa tiba-tiba menjadi senja?
padahal kami belum puas meremaja!”
aku termangu
seperti tengu di sela susu perempuan berputing ungu

dan celakanya tiba-tiba aku kehilangan segala ragu untuk juga ikut
menyusu dan
gila-gilaan nyedot candu.
berayun dengan gelombang dalam angan!

「夕暮れだ！
夕暮れだ！」と中年の者らが嘆く
正気のない気取った合唱で
「どうしてもどこもかしこも
すべてが突然に夕暮れになったと感じられるんだ。
俺たちは若者になることにまだ満足していないのに！」
僕は黙り込んでしまった
紫色の乳首をした女性の乳房の間のダニのように
そして不運にも突然僕は一緒に乳に吸いつくことへのあらゆる迷いを失い
狂ったように麻薬を吸ってしまった
空想の中の波とともに揺れながら！

aku mengapung, melayang, bergoyang, beriang.
aku ngglyeng tapi bukan kerna ciu, kti, ajong, congyang,
red label, chivas regal atau tequila campur putauw chie chiew
yang belakangan sering kutenggak bareng beno siang pamungkas,
sunu andhy purwanto, agus hermanto dan denny tulaseket.
kutenggak di room tujuh sambil ndengerin didit cordiaz
mendengarkan lagu-lagu bob marley sembari berjingkrak sexy.
aku dan saudara-saudaraku ingin mabok,
tapi tak bisa.
sebab tak ada nginum bermerek indonesia!
karena nginum, nginum terus dan terus nginum
namun tak mabok-mabok

: a k u m a ! r a h !

僕は浮かんで、舞い上がり、揺れて、歓喜した。

僕はめまいがしたが、ブノ・シアン・パムンカス、スヌ・アンディ・プルワント、アグス・ヘルマント、デニ・トゥラスカット（*ブノ・シアン・パムンカスから全てティムール氏の友人たちの名前）と最近よく飲んでいてチウ（*うるち米、もち米から作られた蒸留酒で度数は20%を超える）、カー・テー・イー（*黒米からできた酒）、アジョン（*さまざまな腐敗した果物から発酵させて作られたアルコール）、チョンヤン（*スマランの地酒）、レッド・ラベル、シーバス、プータウ・チー・チウ（*スマランの華人社会が作った地酒）入りのテキーラのせいではなかった。

僕は7番ルームでディディット・コルディアズ（*ティムール氏の友人の名前）を聞きながらラッパ飲みした。

ポップ・マーリーの歌を聴きながらセクシーに小躍りして

僕と僕の兄弟たちは酔いたかった、

でも酔えなかった。

なぜならインドネシアのブランドの飲み物がなかったからだ！

飲んでも飲んでも飲み続けても

一向に酔っ払わなかったから

僕は怒っ！たんだ！

negeri macam apa ini, Saudara?

jelaskan padaku: negeri macam apa ini?

jika presidennya menangis ketika menonton film ayat-ayat cinta

tapi saat berkunjung ke lokasi luberan lumpur lapindo ia,

presiden kita itu, unjal ambegkanpun tidak!

一体どんな国なんだこれは、兄弟よ。

僕に説明してくれ 一体どんな国なんだこれは。

もし大統領が『愛の章句』の映画を観た時には泣いて、

ラピンドの泥土災害⁶の被災地を訪ねたときには、
その僕たちの大統領は、深呼吸をすることさえしないとしたり。

jelaskan kepadaku: negeri macam apa ini?
jika ketika banjir, tanah longsor
dan bahkan angin ribut bercampur petir
menjadi gendruwo di tiap tlatah tumpah darah
ia, presiden kita itu,
ribet upyek nyanyi-nyanyi bikin album lagu
sing ketika dirilis jebul ora payu.

僕に説明してくれ 一体どんな国なんだこれは。
もし洪水の時、土砂が崩れ、
さらに風が稲妻と混じって吹き荒れ、
祖国の領土全てでグンドウルウォ (*人間の姿に似た大きくて毛深い怪物) となった
時、
彼、その僕たちの大統領が、
大騒ぎをして夢中になって あれこれ歌ってリリース発売した時には売れもし
ない歌のアルバムを作っているとしたり。

negeri macam apa ini, Saudara?
jelaskan kepadaku: negeri macam apa ini?
ketika jumlah pengangguran terus bertambah
dan jumlah keluarga miskin makin banyak,
ketika harga-harga tak henti naik berlipat
dan bahkan tahu serta tempe tak lagi bisa terbeli oleh rakyat
wakil presiden dari presiden kita itu
sembari cengengesan memapar angka-angka
yang dia kata patut diyakini sebagai indikator

bahwa keadaan rakyat, keadaan masyarakat dan bangsa ini
dari waktu ke waktu terus membaik.

aku tak tahu.

aku yang picek

ataukah wakil presiden dari presiden kita itu yang buta?

aku tak tahu.

aku yang terlanjur tak bisa percaya angka-angka

ataukah wakil presiden dari presiden kita itu yang sedang menebar
dusta?

一体どんな国なんだこれは、兄弟よ。

僕に説明してくれ 一体どんな国になんだこれは。

失業者の数が増え続け、

そして貧困家庭の数がますます増えた時、

物価が何倍にも上がることをやめず、

そしてさらに豆腐やテンペ⁷さえも国民によってもはや買えなくなった時

その僕たちの大統領の副大統領は、

おどけて笑いながら数字を披露する

時とともに改善し続けているという国民の状況、この社会と民族の状況の指標
として確信するにふさわしいと彼が言うものを。

僕は知らない。

僕が視野が狭いのか

それともその僕たちの大統領の副大統領が盲目なのか。

僕は知らない。

僕がもう数字を信じられなくなってしまったのか

それともその僕たちの大統領の副大統領が嘘を流布しているのか。

angka-angka tak pernah membuktikan apa-apa

karena yang kutahu adalah bahwa dari hari ke hari

makin banyak orang yang bisa makan hanya di dalam mimpinya.
itulah sebab mengapa busung lapar, beri-beri, buruk gisi, buyuten
dan ngantukan bertebaran di berbagai penjuru negeri.
menyerang bayi, balita, anak-anak, remaja, orang tua-orang tua,
dan perempuan ataupun laki-laki. bahkan juga menyerang waria!

数字は何も証明したことがない

なぜなら僕が知っているのは日ごとに

ますます多くの人々が夢の中だけでしか食べられなくなっているということだ。

それこそがなぜ栄養失調、脚気、栄養不良、パーキンソン病、

傾眠症（*昼間に強い眠気を感じて、たびたび居眠りをする状態。）が国中いたるところで広がっているかの理由だ。

赤ん坊、幼児、子供ら、青年、高齢者たち、

そして女性も男性も襲っている。さらにニューハーフまでも襲っている！

tapi apa kata menteri kesehatan dari presiden kita itu?

sambil sesekali menepuk-nepuk pipi kiri dengan kertas tissue

lantaran ia pikir pupurnya melumer

oleh sorot lampu kamera televisi swasta,

menteri kesehatan dari presiden kita itu berkata,

“tidak..., tidak..., bukan..., bukan saudara.

itu bukan beri-beri. bukan busung lapar. bukan buruk gisi.

begini ya..., saya ingin katakan pada teman-teman wartawan...,

itu karena mereka kurang menjaga kebersihan lingkungan.

juga karena rumah-rumah mereka tidak memiliki cukup ventilasi udara...”

しかしその僕たちの大統領の厚生大臣はなんと言ったか。

民間TV局のカメラのスポットライトによって

ファンデーションが崩れると思ったから
時折左の頬をティッシュ・ペーパーで押さえながら
その僕たちの大統領の厚生大臣は言った。
「いいえ…、いいえ…、ちがいます…、ちがいます、みなさん。
それは脚気ではありません。栄養失調ではありません。栄養不良ではありません。
こうなんですよ…、私は同胞である記者の方々に申し上げたい…、
それは彼らが環境衛生をあまりよく維持していないからなんです。
また彼らの家が十分な換気口を備えていないからなんです。」

marah dan sedih, sedih dan marah,
bukan karena nginum dan terus nginum tapi tak kunjung mabok,
bukan karena frustrasi atau apa lagi merasa tak berdaya,
bukan karena bertahun menggapai sia-sia,
aku kluyuran, limbung, gluyuran dan bentoyongan
dari satu wajah ke lain tanah, dari satu hari ke lain hati.

怒りと悲しみ、悲しみと怒り、
飲んで飲み続けたのに一向に酔うことが出来なかったからではなかった、
フラストレーションのためではなく ましてや無力だと感じたからではなかった、
何年も夢を追い求め無駄に終わったからではなかった、
僕は徘徊した、ふらふらと、ゆっくりと重荷を背負っているかのように重い足
取りで 一つの顔から他の土地へ、ある日から別の心へと。

aku berpikir, bahkan berharap, akulah yang kirik.
sedangkan negeri ini dan rakyatnya dalam keadaan baik-baik.
tapi apanya yang dalam keadaan baik-baik?
di bawah cahya terik matahari yang sungguh terang dan benderang:

aku menyaksikan seorang perempuan mencuri beras yang sedang ditanak.

aku menyaksikan seorang anak kelas empat esde gantung diri di bawah pohon jambu air di belakang rumah dengan kawat yang semula dipakai ibunya sebagai tali jemuran.

aku menyaksikan remaja dibakar massa karena ketahuan mencuri kotak amal di sebuah masjid.

aku menyaksikan seorang lelaki membongkar makam neneknya dan menyantabnya sambil merapal mantra.

aku menyaksikan seorang lelaki membongkar makam neneknya dan menyantabnya sambil merapal mantra.

僕は考えている、それどころか望んでいる、僕こそが子犬であることを。一方この国とその国民が至ってよい状態にあることを。

しかし何が至ってよい状態にあるというのか。

本当に明るい白昼の太陽の強い日差しの下で

僕は見た 一人の女が炊かれている最中の米を盗むのを。

僕は見た 小学校4年の一人の子供が首を吊ったのを

家の裏のジャンプ・アイル（*果物：英語名はウォーター・アップル）の木の下で彼の母親が元は物干しの紐として使っていた針金で。

僕は見た 青年が大衆に焼かれるのを

あるマシドの献金箱を盗んだことがばれたために。

僕は見た 一人の男が自分の祖母の墓を掘り返すのを

そして呪文を唱えながら食べるのを。

aku menyaksikan guru ngaji berulang melakukan pemerkosaan.

aku menyaksikan putra altar ditunggingkan di samping pastoran dan disodomi sampai kesurupan.

aku menyaksikan seorang polisi membakar orang karena rebutan

wedokan!

aku menyaksikan seorang ibu membunuh tiga putranya
dan ibu yang lain lagi meracun mati lima anaknya.

aku menyaksikan seorang ayah bertahun-tahun menggauli
anak perempuan kandungnya.

aku menyaksikan seorang kakek menghamili cucunya sendiri.

aku menyaksikan seorang anak membunuh ibu, ayah dan paman
serta kakeknya sambil tak henti menyanyikan lagu indonesia raya!

僕は見た 宗教教師が何度も強姦するのを。

僕は見た 侍者 (*ミサの時、神父の手伝いをする人) が神父の住まいの脇で尻を突き出させられ、狂気に囚われるまでソドミーされる (*同性に犯される) のを。

僕は見た 一人の警官が女を奪い合って人を焼くのを。

僕は見た 一人の母親が自分の三人の息子を殺すのを。

そしてまた別の母親が自分の五人の子どもを毒殺するのを。

僕は見た 一人の父親が実の娘を何年も犯すのを。

僕は見た 一人の祖父が自分の孫を妊娠させるのを。

僕は見た 一人の子供が母親、父親、そしておじ、そして祖父を殺すのを
休むことなく「インドネシア・ラヤ (*インドネシアの国歌)」を歌いながら。

aku menyaksikan segerombolan orang menyembelih perempuan hamil,
membongkar perutnya, membetot janin di dalamnya,
mencengkeram salah satu kakinya, menjungkirkannya
dan mengacung-acungkannya ke udara sembari berkali berteriak,
“merdeka! merdeka! merdeka! ini tanah merdeka! tapi bukan untukmu!”

僕は見た 一群の人々が妊婦の首を切り、

腹を切り開き、その中の胎児を引っ張り出し、

そのうちの一方の足を掴み、逆さ吊りにし、宙に何回も突き出すのを。

「ムルデカ（「独立」の意）！ムルデカ！ムルデカ！これは独立した土地だ！でもお前のためのものじゃない！」と何度も叫びながら。

maka aku kembali bertanya: negeri macam apa ini, Saudara?
tapi pertanyaan-pertanyaanku dijawab cuma oleh jegukan asu.
bahkan pertanyaan-pertanyaanku dijawab oleh kahanan yang memaksaku untuk makin lebih menyaksikan tokbring-tokbring prahara kemausiaan,
yang dari waktu ke waktu melumpuhkan nilai dan bentuk keinsananku, dan mungkin juga menghancurkan makna dan wujud kamanungsanmu.

だから僕はもう一度尋ねるんだ 一体どんな国なんだこれは、兄弟よ。
しかし僕の質問は犬の吠える声によって答えられただけだった。
それどころか僕の質問は人道主義的悲劇である無意味な騒乱をさらに目の当たりにせざるをえない状況によって答えられた
時が経つにつれ僕の価値観や人間としての形態を麻痺させ、
そしてもしかすると君の人間としての意味や実在をも破壊させるかも知れない状況によって。

negeri macam apa ini, Saudara?
jika dalam tiap tiga bulan ada luar biasa lebih banyak jumlah orang yang kehilangan mata pencaharian dibanding yang mendapat pekerjaan.
jika dalam tiap tiga bulan dibanding dengan tiga bulan sebelumnya selalu saja ada penambahan jumlah anak-anak putus sekolah,
selalu saja ada penambahan jumlah kematian ibu saat melahirkan,
selalu saja ada penambahan jumlah kematian bayi saat dilahirkan,
selalu saja ada penambahan jumlah kematian kecelakaan di jalan raya,
selalu saja ada penambahan jumlah kematian karena pembunuhan,
selalu saja ada penambahan jumlah kematian karena perampokan,

dan bahkan selalu saja ada penambahan jumlah kesurupan massal yang dialami pelajar sekolah, buruh pabrik dan kuli bangunan!

一体どんな国なんだこれは、兄弟よ。

三ヶ月ごとに職を得る者に比べて職を失う者の数が異常に多い時

三ヶ月ごとにその直近の三ヶ月と比較して

退学する子供たちの数の増加が常にある時、

出産時の妊婦死亡数の増加が常にある時、

出生時の新生児死亡数の増加が常にある時、

大通りでの事故死亡者数の増加が常にある時、

殺人による死亡者数の増加が常にある時、

強盗による死亡者数の増加が常にある時、

さらに学校生徒、工場労働者、建設労働者が経験する集団的狂乱の数の増加が常にある時！

aku heran, mengapa para birokrat, anggota mpr, anggota dpr, politisi

dan para penegak hukum tak pernah kesurupan

atau apa lagi sampai kesurupan massal?

apakah karena sebagian besar di antara mereka telah bikin

perjanjian dengan setan, jin dan demit bekasakan?

aku tak tahu, Saudara.

pernah hampir ada yang menerangkan kepadaku,

tetapi belum lengkap sepeatah kata dia ucap,

aku mendengar geger genjik keributan menggemma dari kejauhan.

maka aku berlari ke sana.

僕は呆れている、なぜ官僚たち、国民協議会の議員たち、国会議員たち、政治家たち、そして法律を司る者たちは取り憑かれることがないんだ
ましてや集団的狂乱にまでなることがないんだ。

彼らの大部分が悪魔、ジン（幽鬼）、ドゥミット・ブカサカン⁸（*お化けの名）とすでに約束をしているからなのか。

僕は知らないんだ、兄弟よ。

かつてもう少しで僕に説明してくれようとした者がいた。

でも彼がまだ一言を言い終わらないうちに、

僕は子豚が大騒ぎする騒動が遠くから響いてくるのを聞いた。

だから僕はそこへ駆けて行った。

astaga!

aku melihat segerombolan orang berpakaian krembyah-krembyah warna putih terang hampir menyilaukan membawa pentungan, galah, linggis dan bahkan parang.

seperti sekawan an iwak nus dan ubur-ubur, dengan wajah beringas dan tandang banteng ketaton mereka merazia dan mengobrak-abrik rumah bilyard, kedai minuman, kafe, rumah makan cina dan restoran jepang.

aku menyaksikan bom meledak di yang semula tak pernah kubayangkan bakal diseraki tebaran serpihan daging dan pecahan tulang yang mengapung di permukaan genangan darah.

ini terjadi tak cuma sekali, melainkan berseri

seperti cerita silat ko phing hoo atau sh mintardja dan gan kl yang dulu biasa kubaca di bawah wit pakel.

なんてことだ！

僕はだらしのない格好の一群の人々を見た

明るい白色が、もう少しで木槌や槍、ノミ、さらには斧をもってくるのをまぶしくて見えなくさせるところだった。

一群のイカとクラゲのように、凶暴な顔つきで

怪我を負った野牛のようにやってきて、彼らは一斉取り締まりを行い、ピリ

アード施設、飲みもの屋、カフェ、中華食堂、そして日本料理レストランをめちゃくちゃにした。

僕は爆弾が破裂するのを見た 当初はそこに肉片や骨の破片が散らばり、血だまりの表面に浮かぶとは想像だにできなかったところで。

これはたった一度だけではなく、連続して起きた。

以前いつも僕がマンゴーの木の下で読んでいたコ・ピン・ホー、あるいはエス・ハー・ミンタレジョやガン・ケー・エルによるシラット (*インドネシアの護身術) 物語のように。

aku tak tahu mengapa,

aku tak faham bagaimana mulanya,

aku tak mengerti pahala macam apa yang diharap bakal diperolehnya sampai ada yang membakar masjid, gereja dan juga menggusur vihara atau bersikeras menganggap puranya lebih keramat dibanding pura lainnya.

aku geleng-geleng bingung dan ngeri menyaksikan akal sehat hengkang dari banyak batok kepala.

aku melihat kalbu terbakar di rongga dada.

僕はなぜなのかわからない。

僕は始まりがどうだったのかわからない。

僕は彼らがどんな功德を手に入れたいと願っているのか理解できない モスク、キリスト教会を焼き仏教寺院を強制撤去する あるいは自分の礼拝施設が他の礼拝施設よりも神聖だと頑なに思い込む者まであった。

僕は戸惑いぞっとして首を横に振った

理性が多く頭の蓋骨から逃げ出すのを見て。

僕は見た 心が胸腔の中で焼かれるのを。

aku tak tahu mengapa

aku tak faham bagaimana mulanya
aku tak mengerti sorga macam apa yang disangka bakal menjadi miliknya.
sampai makin banyak saja kelompok yang mengancam kelompok lainnya
sambil menyerukan pembunuhan, pembantaian
dan bahkan meneriakkan ajakan melakukan pembasmian.

僕はなぜなのかを知らない。

僕は始まりがどうだったのかわからない。

僕はわからない どんな天国が彼らのものになると思っているのか。

やがて他の集団を脅す集団がますます多くなっていただけだった

殺人、虐殺を呼びかけながら、

さらには撲滅を行うよう呼びかける言葉を叫びながら。

bagaimana bisa muncul keyakinan,
bahwa yang bukan kelompoknya adalah wirog
atau hama di tengah kehidupan
dan oleh karenanya harus dibinasakan.

どうしたらそんな信念が現れてくるんだろうか、

自分の集団でない者は生活の中のドブネズミあるいは害虫で

それゆえに駆除されなければならないというような。

katakan padaku, Saudara.

katakan padaku.

di negeri macam bagaimana kita sedang berada

di mana-mana kesumpegkan merajalela.

maksud baik kehilangan gorong-gorong pelepasannya.

senyum dan pandang mata bisa jadi mula nyala sengketa.

僕に言ってくれ、兄弟よ。

僕に言ってくれ。

一体どんな国に僕たちは今存在しているのか
至る所に苦悩が蔓延している。

善意が行き場を失ってしまっている。

微笑みと眼差しは揉め事の火種となりうる。

orang-orang menjelma jadi mata dadu,
sebagian lain berubah jadi batang-batang ciamsi.
reog, jaran kepeng dan barongsai meniup uplik,
teplok dan lampion.
pikiran kehilangan pemikiran.
rasa kehilangan perasaan.
tindakan tak berpijak pada aturan.
dan aturan bersliweran tanpa pengawasan.
kasunyatan dipedaya mitos-mitos yang melemahkan daya juang.

人々はサイコロの目となり、
一部の他の者たちはチアムシ（*道教由来の占い）のおみくじ棒へと変わる。
レオッグ（*東ジャワ、ポノロゴ地方の伝統行事で使われるライオンのお面と孔雀の羽で飾られた出し物）、ジャラン・ケバン（*ジャワの伝統舞踊で使われる馬の形をした道具とその舞）、バロンサイ（*儒教の新年の祭りに演じられる獅子舞）はウプリック（*ジャワの伝統的なランプ）、ケロシンランプ、そして提灯に息を吹きかける。
思考が思想を失う。
感情が感覚を失う。
行為が規則に依拠しない。
そして規則は監視されず交錯する。
悟りの学問は闘う力を弱める神話にごまかされている。

aku mendengar presidenku memekik, “bersama kita bisa!

bersama indonesia bisa!"
aku tertawa dan bertanya pada gema tawaku sendiri,
"bagaimana dia bisa ajak kita bisa
jika sekadar untuk dengan benar memekik bisa dia tidak bisa?
kalaupun bisa, jangan lupa, bisa memekikkan bisa adalah satu hal
dan bisa benar-benar mewujudkan apa yang kita pikir bisa lakukan
adalah hal yang lainnya lagi!"

僕は僕の大統領が金切り声をあげて叫ぶのを聞いた、「我々と一緒なら
できる！インドネシアと一緒にできる！」と。
僕は笑って自分の笑い声のこだまに尋ねた、
「どうすれば彼は僕たちができると誘うことができるんだ
もし金切り声を上げてできると本当に叫ぶことさえ彼ができないとしたら。
もしできたとしても、忘れちゃいけない、できると叫ぶことは一つのこと
で、我々が行うことができると考えていることを本当に実現できることはまた別
の事柄だ！」

aku mendengar anak-anak esde dengan fasih bernyanyi,
"nenek moyangku orang pelaut..."
sambil membusungkan dada. tetapi aku melihat
laut negeri ini dijarah kapal-kapal asing raksasa penangkap ikan,
sementara nelayan-nelayan di banyuwangi, di tuban, di rembang,
di jepara dan tegal serta di daerah-daerah lain tak melaut.
mereka tak melaut bukan lantaran gigrik karena cuaca buruk,
tetapi karena tak mampu membeli solar buat mengumpan motor
tempelnya.
sementara yang tetap bisa melaut ditabrak kapal dagang
atau ditembaki angkatan laut negara tetangga.
kapalnya dibakar.

orang-orangnya dipenjarakan.
dan pemerintah kita menganggapnya sebagai peristiwa rutin biasa!

僕は小学校の子どもらが流暢に歌うのを聞いた。
「僕の先祖は船乗りだった…」
と胸を張りながら。しかし僕は見る
この国の海が外国の巨大漁船に強奪されているのを、
その一方で、バニユワンギ（*東ジャワの海岸に面した街）、トゥバン（*ジャワ島北
海岸の街）、レンバン（*ジャワ北岸の街）、
ジェパラ（*ジャワ北岸の街）、そしてトゥガル（*ジャワ北岸の街）、またその他の
地域の漁師たちは漁に出ない。
彼らが漁に出ないのは天候が悪いために恐れているからではない、
取り付け式の発動機に入れる軽油を買う能力がないからだ。
その一方 漁に出ることができる者は商船に衝突される
あるいは隣国の海軍に銃撃される。
船は焼かれる。
関係者らは刑務所に入れられる。
そして僕たちの政府はそれを普通の日常的な出来事だと見なしているんだ！

aku mendengar dalang wayang kulit medar crito
bahwa negeri ini adalah negeri gemah ripah loh jinawi....
tetapi aku melihat para petani tak bisa tander lantaran bibit langka,
dan mereka yang bisa tander tak bisa beli pupuk
karena harga pupuk jauh lebih tinggi dibanding harga jual gabah.
aku mendengar para pasangan calon bupati, calon walikota,
calon gubernur dan bahkan dulu juga para calon presiden
menjanjikan pendidikan gratis.
tetapi aku melihat pawai anak-anak putus sekolah melarik
kemriyek melajur-lajur di jalan-jalan raya utama kota

dan juga di jalan-jalan inpres di lebih dari 1200 pedesaan.
aku juga melihat bangunan reot ribuan sekolah dasar,
ratusan diantaranya ambruk bukan karena angin puting beliung.

僕は影絵芝居の人形遣いが物語を伝えるのを聞いた
この国は豊かで繁栄していて 平和で安全で安寧な国だと。
しかし僕は 農民たちが苗が入手困難で植えることができないのを見た、
そして（苗を）植えることのできる者たちは肥料を買うことができない
なぜなら肥料の値段が籾の売値に比べてはるかに高いからだ。
僕は県知事候補、市長候補、州知事候補の相棒たち⁹
さらにはかつては大統領候補者たちが教育の無償化を約束したのを見た。
しかし僕は学校を中退した子どもたちが街の目抜き通り、
そして1200以上の村落で大統領令で作られた道路で
ごった返して遠くまで並んでいるのを見た。
僕もまた見た、数千の老朽化した小学校の建物を、
それらのうちの数百が竜巻の風によってではなく倒壊するのを。

katakan padaku, Saudara.
katakan padaku, negeri macam apa yang rakyatnya merindukan ratu adil
tapi pemimpin-pemimpinnya menggadaikan damkar kencono
ke orang-orang monco.
membiarkan hutan diplontosi,
membiarkan sungai-sungai dan udara dicemari,
membiarkan gunung emas dikeruk tuntas
dan membiarkan lautan dikuras!

僕に言ってくれ、兄弟よ。
僕に言ってくれ。一体どんな国なんだ その国民は正義の女王を切望している
のに その指導者たちは外国人らに黄金の玉座を質入れするというのは。

森林が禿山にされるままにし、
川や空気が汚染されるままにし、
金の山が掘り尽くされるままにし
そして海が搾り取られるままにする！

katakan padaku, saudara.
jamur macam apa
lumut macam apa
rumput macam apa
alang-alang macam apa
yang tumbuh membelukar di benak dalam batok kepala mereka?

僕に言ってくれ、兄弟よ。
一体どんなキノコが
一体どんな苔が
一体どんな草が
一体どんな葦が
彼らの頭蓋骨の中の脳みそに生い茂っているのか。

negeri macam apa ini, saudara?
nastapa macam bagaimana pula yang tengah dikandungnya?

どんな国なのかこれは、兄弟よ。
一体どのような類の悲哀を抱えているというのか。

semarang, mei 2008
スマラン、2008年5月

Ⅲ. おわりに

最後に、ティムール氏のプライベートな側面についても少し触れておきたい。若い頃、恋人が大勢いたというティムール氏は、1995年に現在の妻デウィ・ヌルリアンティと結婚したが、彼が結婚相手に選んだのが、それまで彼が付き合っていた派手な女性たちとは違い、ごく普通のおとなしい女性だった。そのため、結婚当時、周囲は大層驚いたという。妻は現在、高校の教師をしている。結婚相手には「妻」の人物像に相応しい人を選んだとのことで、ティムール氏の堅実な一面が垣間見える。

ティムール氏の家系は、両親、兄弟姉妹もキリスト教徒であるが、ティムール氏自身は、イスラム教徒である現在の妻と結婚する際にイスラムに改宗した。インドネシアでは1974年制定の婚姻法によって、婚姻は宗教に基づいて行われると定められており、同じ宗教の者同士しか結婚が認められないためである。そうした背景もあり、ティムール氏の宗教観はかなりリベラルで、交友関係も広い。Facebookに書き込まれる内容は、良い意味で社会的な常識にとらわれず、社会批判をする時には、周囲の目を気にすることなく、齒に衣を着せぬ発言をするのが彼の特徴の一つだといえる。また彼はかなり風変わりな人物でもある。発言、活動も風変わりで、いかにも芸術家といった風貌をしている。つい最近までは背中の中分くらいまでの白髪交じりの長髪をなびかせながら詩を朗読し、街を闊歩していた。時にはその長髪を、紫や緑に染めることさえあったが、ちなみにその長髪は今はない。数か月前、Facebook上である約束をして、その約束を守るためにバツサリとその長髪を切ったからだ。

ティムール氏が舞台上で詩を朗読する時には、体をしなやかに動かしたり、時にはしゃがんでか弱くすすり泣くような声をだしたりする。軽やかな動きで雰囲気たっぷりに恋愛詩を読み上げるかと思えば、大声で怒鳴るような声で読み上げたり、力強く舞台を踏み鳴らしたりしながら社会批判を内容とする詩を読み、舞台役者顔負けのスタイルで詩を朗読し、その低く響きのよい声で観衆を魅了する。

彼は、ジャワの宗教、文学、人相学、さらには呪術に関する知識にも詳しく、それと関係があるのかないのかは不明だが、彼はクリスと呼ばれるジャワの短



(写真4 クリス(ジャワの短剣)を鞘の上に立てるティムール氏。2011年9月筆者撮影。)

剣を鞘の上に立てたりすることもできる不思議な能力の持ち主だ(写真4参照)。

インドネシアのイスラム社会は近年ますます保守化し、イスラム教徒がアルコールを飲むことなどがタブー視されつつあり、2000年以降は、地方分権化の推進を背景にあちらこちらでアルコール販売禁止条例が制定されるようになってい

る。さらに2015年に入り、若者の飲酒を防ぐことを目的として、コンビニのような小規模店舗でのアルコールの流通販売が商業大臣命で規制された。それ以前は、ビールやワインを飲むことに対して、それほど厳しい目は向けられていなかった。ティムール氏も若い頃から仲間たちとアルコールをよく飲んでいたといい、今でもビールの他、洋酒やスマランの華人社会が作った地酒などを仲間たちと集まるときに飲むことがあるという。ちなみに現在の50才以上の年代のインドネシア人は、アルコールに対して一般に寛容である者が多い。

ティムール氏は日々、Facebookに自分自身のこと、家族、友人たちのことをかなりオープンに話題にする他、世間体など気にせず自己の信念を語り、時に感情を露わにして政治や社会を時に痛烈に批判し、多くのFacebookerたちを惹きつけている。ちなみに彼のFacebookのフォロワーの数は、2015年7月12日時点で9645人に上る。ティムール氏が時折りFacebook上で見せるそうした姿勢は、一般に対面を重んじ、感情を露わにすることを極力控え、いつも柔和なイメージで語られることの多いジャワ人としてはかなり珍しいといえる。その風変わりで一匹狼的な人となりは、若い頃からのもののように、「フォーマルな事柄の正当性を信じたことがない」というティムール氏は、高校の卒業証書を破ってしまって、その破られてバラバラになってしまった証書を友人がテープで貼り合わせてくれたというエピソードもある。大学教育を受けなかったことも含めて、そうしたエピソードには、社会通念や常識に囚われない彼の

性質と生きる姿勢がよく表れている。

ティムール氏の書く詩の多くは恋愛詩であるが、それだけではなく中には社会派の詩もある。彼の詩は、繊細な感性から生み出される独特の空間と、流れるような文体がその魅力だ。イスラム社会といえば、男女間の戒律が厳しいというイメージが先行するが、恋愛は決してタブーではない。ティムール氏は近年Facebookに恋愛詩を多く掲載し、それらの作品には多くのファンがLikeをつけ、作品についてコメントを寄せている。

もちろん、保守的なイスラム教徒はそうした作品にはおよそ関心を示さないが、たとえスカーフを着用している女性であっても、またイスラム教の教師をしているものであっても彼の詩に関心を示す者は少なくない。

ティムール氏の恋愛詩の数々は、ともすれば私たちが保守的で閉鎖的であると偏見をもって見てしまいがちなイスラム文化や社会についてのステレオタイプな見方を打ち破り、インドネシアにおけるイスラム社会の多様性、恋愛や性を詩のテーマにすることについての開放性について雄弁に物語ってくれるものといえるだろう。

注

- 1 2015年7月9日、インターネット・メール経由で、いくつかの質問に対する回答をティムール氏本人から受け取った。本稿におけるティムール氏の紹介は、それらの回答内容に基づくものである。
- 2 この詩のタイトルは、イスラム教のハディース(預言者ムハンマドの言行録)に、「天国は母親の足の裏にある」という言説があることに関連していると考えられる。またハディースには、「この世でもっとも尊敬すべき人は誰か」と預言者ムハンマドが教友(弟子)に尋ねられた時、「あなたの母親だ」と答えたという伝承がある。そして、「では、二番目に尊敬すべき人は誰か」「三番目に尊敬すべき人は誰か」と尋ねられた時にもやはり預言者ムハンマドは「あなたの母親だ」と答え、「四番目に尊敬すべき人は誰か」と尋ねられた時に、ようやく「あなたの父親だ」と答えたと伝えられている。母親を大切にすべきとするこの伝承は、イスラム教徒ならば誰でも知っているほど有名で、一般にイスラム教徒の間で母親が特別に尊敬され大切に扱われていることがこの詩の背景にある。

- 3 スマラン特有の子供の遊び。リーダーとなった者が、片足にレンガの欠片を載せて、もう一つの足を使ってケンケンで歩いていろいろな所へ行く。その後ろを他の者はやはり片足にレンガの欠片を載せてケンケンで歩いてついていかなければならない。その時、足に載せたレンガを落としてはいけないというルールで行われる。
- 4 マリン・クندانは、母親に不孝をして石になってしまったという西スマトラ地方に伝わる伝説に出てくる子どもの名前である。
- 5 以下のサイトに、ティムール氏がSAJAK MENGEJA KAHANANの詩を朗読したときの動画があるので紹介しておく。ただし、本稿で訳しているFacebookに掲載されている詩のフレーズとはいくつか異なる箇所が見受けられる。
https://www.youtube.com/watch?v=H_wHAPnS_28
- 6 2006年5月、東ジャワ州、スラバヤ近郊のシドアルジョで、地下から高熱の泥が噴出し、村ごと泥に埋まってしまった災害。地震によって引き起こされた天災とする見方もあるが、ラピンド・ブランタス社が許容限度を超えて掘削したことによって引き起こされた人災とする見方が有力である。設計段階での安全性確認の妥当性、掘削許可を与えた行政側の責任も指摘されている。
- 7 大豆から作られた発酵食品の名称。
- 8 ジャワ人の信仰によれば、金曜日でクリウォン（ジャワには、kliwon, legi, pahing, pon, wageの五曜からなる暦があり、kliwonはその一つ）の日の前日の夜は、お化けたちの夜とされ、ドゥミット・ブカカサンは、その時に出てくるお化けの一つである。他にも、Genderuwo, Wewegombal, Kuntilanak, Sundelbolong, Pocong, Glundung Pringisなどが出てくるとされている。
- 9 県知事選挙、市長選挙、州知事選挙では、それぞれの候補者が正副のペアを組んで選挙戦を戦う。

謝辞

最後に、今回の詩の日本語訳については、詩人白石かずこ氏と、詩の愛好家である平手政夫氏から貴重なコメントを数多く頂いたことを申し添え、両氏のご厚意にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。